

◆-----◇  
総合実用英文法講座

第23号 分詞 形容詞用法 基本

発行者：鈴木 拓 <http://www.thebelltree.com/>

◆-----◇  
こんにちは。鈴木 拓です。

「総合実用英文法講座」をご利用いただきありがとうございます。

本講座のサンプルをご覧いただきありがとうございます。

今号からは、「分詞」

最初は形容詞用法の基本からお話しします。

■進行形や受動態で使われるものだが、形容詞としても使える

分詞というのは、2種類あります。

1：現在分詞

2：過去分詞

です。

現在分詞というのは、要するにingのことで、  
進行形で使われます。

例えば、

He is washing the car.

「彼は車を洗っています」

のwashingがそうです。

過去分詞は、受動態で使われます。

She is mentioned in the article.

「彼女は記事で言及されている」

のmentionedは過去分詞です。

現在分詞と過去分詞は、実は形容詞としても使えるのです。

具体的には「Sとbe動詞」を取ってしまえばOK。

He is washing the car.

だったら、Sのheと、be動詞のisを取ってしまい、

washing the car

です。これを形容詞として使えるのです。

例えば、

S	V	C
The guy	is	my brother

「男は私の兄です」

のthe guyに、washing the carという現在分詞でできた形容詞をつければ、

S	V	C
[The guy <washing the car>]	is	my brother

となり、

「車を洗っている男は私の兄です」

という意味を表せます。

現在分詞を名詞につけると、  
「車を洗っている」のように、進行形の意味になります。

She is mentioned in the article.

であれば、Sのsheと、be動詞のisを取ってしまえば、

mentioned in the article

で、これを形容詞として使えます。

例えば、

S	V	C
The congressperson	made	a gaffe

「議員は失言した」

のthe congresspersonに、mentioned in the articleという過去分詞で  
できた形容詞をつければ、

S	V	C
[The congressperson <mentioned in the article>]	made	a gaffe

となり、

「記事の中で言及されている議員は失言した」

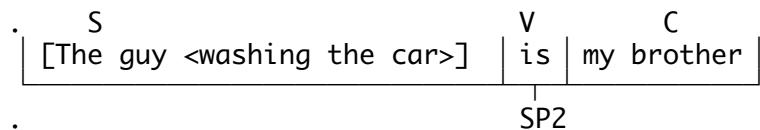
という意味を表せます。

過去分詞を名詞につけると、  
「記事の中で言及された」のように、受動態の意味になります。

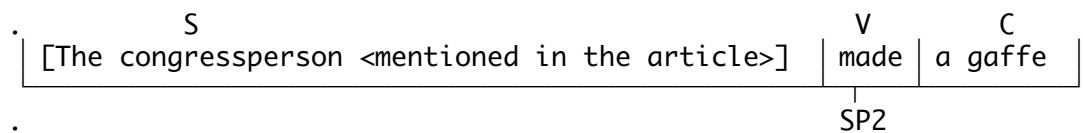
## ■Sは必ず修飾される名詞、他はちゃんと構造がある

形容詞として使う現在分詞、過去分詞は、必ずSが修飾される名詞であり、省略されています。

例えば、

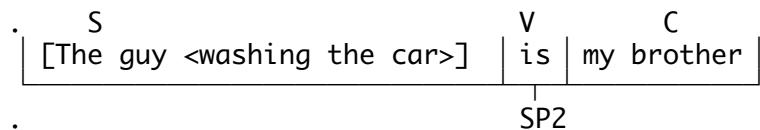


であれば、washingのSはthe guy。

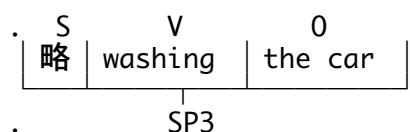


であれば、mentionedのSはthe congresspersonです。

そして、もともとは文でしたから、ちゃんとした構造があります。



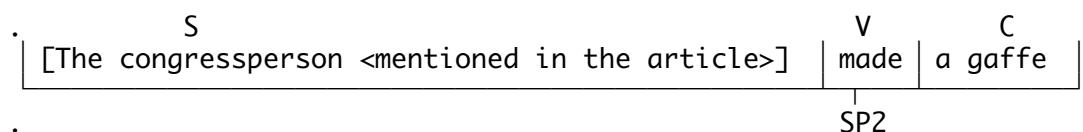
だったら、



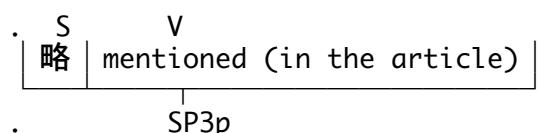
という第3文型の構造がある。

形容詞として現在分詞を使う場合は、これも含めて1つの現在分詞です。

washingだけではなく、washing the carで1つの現在分詞、1つの形容詞です。



だったら、



という第3文型の受動態の構造がある。

形容詞として過去分詞を使う場合は、  
これも含めて1つの過去分詞です。

mentionedだけではなく、mentioned in the articleで1つの過去分詞、  
1つの形容詞です。

この「Sは略されても、ちゃんと文としての構造がある」と  
言う点は、不定詞と同じですね。

### ■進行形の過去分詞

一応、受動態には進行形があります。

「be動詞 being 過去分詞」という形をしており、  
例えば、

S	V
It	is being investigated

SP3p

は、

「それは調査されている」

という、まさに調査が進行中であることを表せます。

これを形容詞にする場合は、「Sと(最初の)be動詞」を取り、  
Itとisを取り、

being investigated

とします。

これを、例えば、

S	V	C
The matter	is	<on the news>

SP2

「件はニュースに出てる」

のthe matterにつければ、

S	V	C
[The matter <being investigated>]	is	<on the news>

SP2

となり、

「調査されている件はニュースに出てる」

という意味を表せます。

### ■ 1語なら名詞の前、2語以上なら名詞の後ろ

この分詞で出来た形容詞ですが、  
ルールは、普通の形容詞と同じで、

「1語なら名詞の前、2語以上なら名詞の後ろ」  
です。

例えば、

. 

S	V	O
The baby	woke	me (up)

. SP3  
「赤ちゃんが私を起こした」

のthe babyに

. 

S	V
略	crying

. SP1

をつける場合。

cryingは1語ですので、

. 

S	V	O
The crying baby	woke	me (up)

. SP3  
「泣いている赤ちゃんが私を起こした」

と、前に置きます。

一方、

. 

S	V	C
The girl	is	my sister

. SP2  
「女の子は私の妹です」

のthe girlに、

. 

S	V	O
略	giving	a speech

. SP3

をつける場合。

giving a speechは3語ですので、2語以上。

- . 

S	V	C
[The girl <giving a speech>]	is	my sister
- . 「演説をしている女の子は私の妹です」  
SP2

と後ろに置きます。

過去分詞でも同様です。

- . 

V	S
(There) is	a broken radio
- . 「壊れたラジオがある」  
SP1i

このbrokenは1語なので、名詞より前に置かれていますし、

- . 

V	S
(There) is	[a picture <painted by this famous artist>]
- . 「この有名な芸術家によって描かれた絵がある」  
SP1i

このpainted by this famous artistは5語なので、後ろに置かれています。

ただし、この「1語の場合は前」というルール。  
ネイティヴは守らないことが非常に多いです。

実用英語でどう使われるかは、第25号でお話しさせていただきます。

「2語以上なら後ろ」というのはしっかりと守られます。

### ■時制や助動詞は基本ない

不定詞でも、時制や助動詞はなかったですが、  
分詞も同様で、基本的にありません。

あえて言うと、完了形は可能です。

能動態はhaving 過去分詞、受動態はhaving been 過去分詞です。

ただ、形容詞として使う場合は、  
これは、ほぼ使われません。

使われる場合は、副詞として分詞が使われる場合です。

副詞として使う分詞は第27号で、  
そして、分詞の完了形は、時制の号でお話しさせていただきます。

## ■Sに過去分詞がついていると紛らわしい

リーディングの際に多くの人が苦労するのが、  
「Sに過去分詞の形容詞が付いている場合」です。

例えば、

The person talked about in the news recently is the new prime minister.

です。

これを、

The person 人は  
talked about 話した  
in the news ニュースで  
recently 最近  
is だと  
the new prime minister 新しい総理大臣

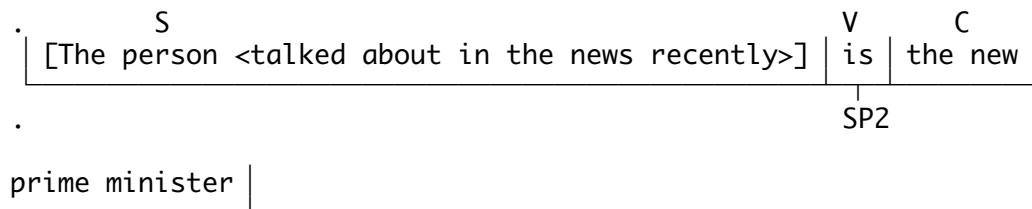
「人は最近、新しい総理大臣だとニュースで話しました」

という意味だと取ってしまう人がとても多いのです。

しかし、これは間違い。

↑は「話しました」と、talked aboutをVと取ってしまっていますが、

実際には、



というように、talked about in the news recentlyは、過去分詞の形容詞として、the personを修飾しているのです。

そして、意味は、

「最近、ニュースで話される人(話題になる人)は新しい総理大臣です」

という意味なのです。

どう見分ければいいのか？

というと、ポイントは、過去分詞の後ろです。

talk aboutというのは第3文型の動詞です。

仮に、talked aboutがVで「話した」という意味であれば、

S	V	O
The person	talked about	this new policy

SP3  
「人はこの新しい政策について話した」

のように、talked aboutの後ろには、Oになる名詞が絶対に必要なのです。

ところが、

The person talked about in the news recently is the new prime minister.

のように、後ろに名詞がない。

ということは、  
「Oがないってことは受動態。過去分詞で、the personを修飾しているんだ」と判断するのです。

talk aboutなんかはイディオム動詞で、絶対に第3文型なので、  
わかりやすいですが、accuseのように、イディオム動詞でない第3文型だと、

「この動詞は第3文型」

と見抜かないと伺えません。

例えば、

The man accused of lies has been telling the truth for the whole time.

こちらは、「accuseは第3文型の動詞なのに、Oがないから過去分詞」と見抜く必要があります。

構造としては↓になります。

S	V	O
[The man <accused of lies>]	has been telling	the truth (for
SP3		
the whole time)		

S	V	O
略	accused (of lies)	
SP3p		

だから、「嘘を非難された男はずっと真実を語っていた」という意味になる。

ただ、どうしてもわからないこともあります。

その場合は、

The man accused of lies

までは、「男は嘘を非難した」だと思っていたけど、

has been telling

と出て来て、「あ、こっちがVだ。さっきのaccusedは過去分詞だったんだ」と気づく。

こういう読み方も仕方がない時もあります。

### ■付帯状況を表す「with 名詞 形容詞」

withは前置詞で、後ろに名詞を置いて使います。

例えば、with a nice hatは、後ろにa nice hatという名詞を置き、「良い帽子と共に（良い帽子をつけた）」という意味になります。

普通は、名詞につける形容詞は、niceのように1語なら、名詞の前に置きます。

しかし、withの場合、あえて後に置くことで、別の意味を表す用法があります。

例えば、

with her eyes open

は、openは形容詞ですが、あえて後に置いています。

そうすることで、従来の意味である、「彼女の開いた目と共に」ではなく、「彼女の目が開いた状態で」という意味を表せます。

これは「付帯状況のwith」と呼ばれます。

この「あえて後に置く形容詞」に分詞がよく使われます。

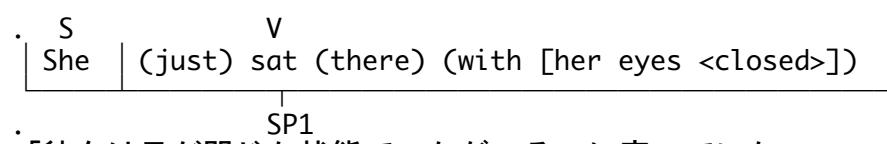
例えば、closed「閉じられた」という、close「閉じる」を受動態、過去分詞にした形容詞。

これを、置けば、

with her eyes closed

で、「彼女の目が閉じた状態で」となります。

↓のように、withは前置詞ですので、構造上はやはり前置詞+名詞。付帯状況のwithは副詞になります。



ちなみに、先程、openは、with her eyes openと、openをそのまま使いました。

これはなぜかと言うと、openは形容詞として使えるので、そのままで良いのです。

一方、closeは動詞でしか使えず、「閉じた」という意味なら、close「閉じる」を動詞として使い、それを過去分詞にしたclosed「閉じられた→閉じた」とするしかないからになります。

### ■第1文型の動詞でも例外的に使われる過去分詞

これまでのように、形容詞として使う過去分詞は、受動態。

つまり、第3～5文型の動詞にしか使えないのですが、第1文型の動詞にも、稀に使われることがあります。

その一例が、

fallen leaf

という組み合わせです。

fallは「落ちる」という意味で、第1文型の動詞です。

fallenは、fallの過去分詞。

第1文型なので、受動態にはできないのですが、fallen leafに関しては、特殊な使い方が許され、

fallenは「落ちてしまった」という過去の意味。

fallen leafで、「落ちてしまった葉」という意味を出せます。

.	S	V	O	
.	She	picked up	a fallen leaf	
.	SP3 「彼女は落ち葉を拾った」			

### 【実際に英文を作ってみよう！】

単語を並べ替えて、日本語の意味の英文を作ってください。

※：ただし、以下の単語は並べ替えるべき単語に入っておらず、適宜自分で補って考えてみてください。

I, me, my, we, us, our, you, your, he, him, his, she, her, it, its, they, them, their, this, these, that, those, there

※：本来、複数形にするはずの単語は单数のままにしてあることがあります。  
これも適宜自分で複数形にしてください。  
最初から複数形になっているものは、複数形のままにしてください。

※ : have not→haven't、 I am→I'mのような短縮形にする、しないはどちらでもかまいません。

※ : 本来anとすべきところも、「a」になっています。  
適宜、anに直して使ってください。

※ : be動詞 (am、was等) は「be」と記載します。  
適宜、正しい形に直してください。

※ : どの時制であれ、動詞は「run」のように原形で表します。  
runs、ran、has run、is runningなど、適宜時制を変えて使ってください。

※ : 否定文、疑問文にするための語 (not、do、does、haveなど) は単語リストに入っています。適宜補ってください。  
ただし、not以外の否定文、例えばneverを使った否定文などは、単語リストに入っています。(neverを使った否定文ならnever)

※ : 助動詞は入っていません。必要なものは適宜補ってください。

※ : 所有格にすべき単語もそのまま記載しています。  
例えば、Terry'sとすべきものでも、Terryとしか記載しません。  
適宜補って使ってください。

※ : 従属接続詞は入っていません。適宜補って考えてください。

※ : if、whetherに入れるor notは単語リストに入っていますが、  
入れても入れなくてもOKです。

※ : so that、such thatのso、suchは入っていません。適宜補ってください。

※ : 等位接続詞は入っていません。適宜補って考えてください。

※ : 受動態にするためのbe動詞/getは入っていません。  
適宜補って考えてください。

※ : 「不定詞のSのためのfor、of」と「不定詞のto」は記載しません。  
適宜補ってください。

※ : 程度用法にするtooとenoughは入っていません。

1. あそこで走っている男性が私の体育の先生です。  
(there/teacher/man/gym/the/be/run)

2. 私は新聞に書かれているこの文字が読めません。  
(newspaper/letter/the/read/on/write)

3. 3日前に放置された彫刻は本当に価値があった【過去形】  
(three/really/sculpture/valuable/ago/abandon/day/be)

4. マイクは注目されるべき選手です。  
(player/attention/be/pay/Mike/the/to)

5. あまりに多くの落ち葉があり、それらは緑の絨毯のように見える。  
(green/leaf/carpet/like/fall/many/be/look/a)

6. 脚を組んで座るのは失礼です。  
(leg/rude/cross/be/sit/with)

7. 今修理中の橋は、ベイブリッジです。  
(bridge/now/Bridge/the/the/repair/be/Bay)

8. 昨日、私が公園に行った時、政治の演説をしている人がいました【過去形】  
(give/a/go/political/yesterday/the/be/person/speech/park)

第23号の内容は以上となります。

今後も英語学習のお役に立てればと思っておりますので、  
何卒よろしくお願ひいたします。